

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

#3 フランスのバカロレア試験から日本の大学入試を考える —細尾萌子先生(立命館大学准教授)にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

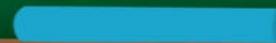
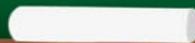
<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年幸生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



(ご紹介)



細尾 萌子

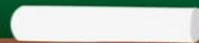
ほそお もえこ

立命館大学文学部 准教授

京都大学教育学部卒業、京都大学大学院教育学研究科
博士課程前期課程・後期課程修了、博士（教育学）

近畿大学講師を経て現職。フランス教育学会理事、公
益財団法人「大学コンソーシアム京都」高大連携推進
室コーディネーターほか。

日本教育方法学会 研究奨励賞（2012）



○本書の課題

バカロレア試験で問われる思考力・表現力が、フランスの高校生や大学生に身につけているのか。



○叢書

細尾萌子編著『**大衆教育社会におけるフランスの高大接続**（高等教育研究叢書164）』（広島大学高等教育研究開発センター、2022年）

大衆教育社会の難しさ。バカロレア試験だけで学力担保は無理

<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00052417>

大衆教育社会におけるフランスの
高大接続

高等教育研究叢書

164 2022年3月

細尾 萌子 編



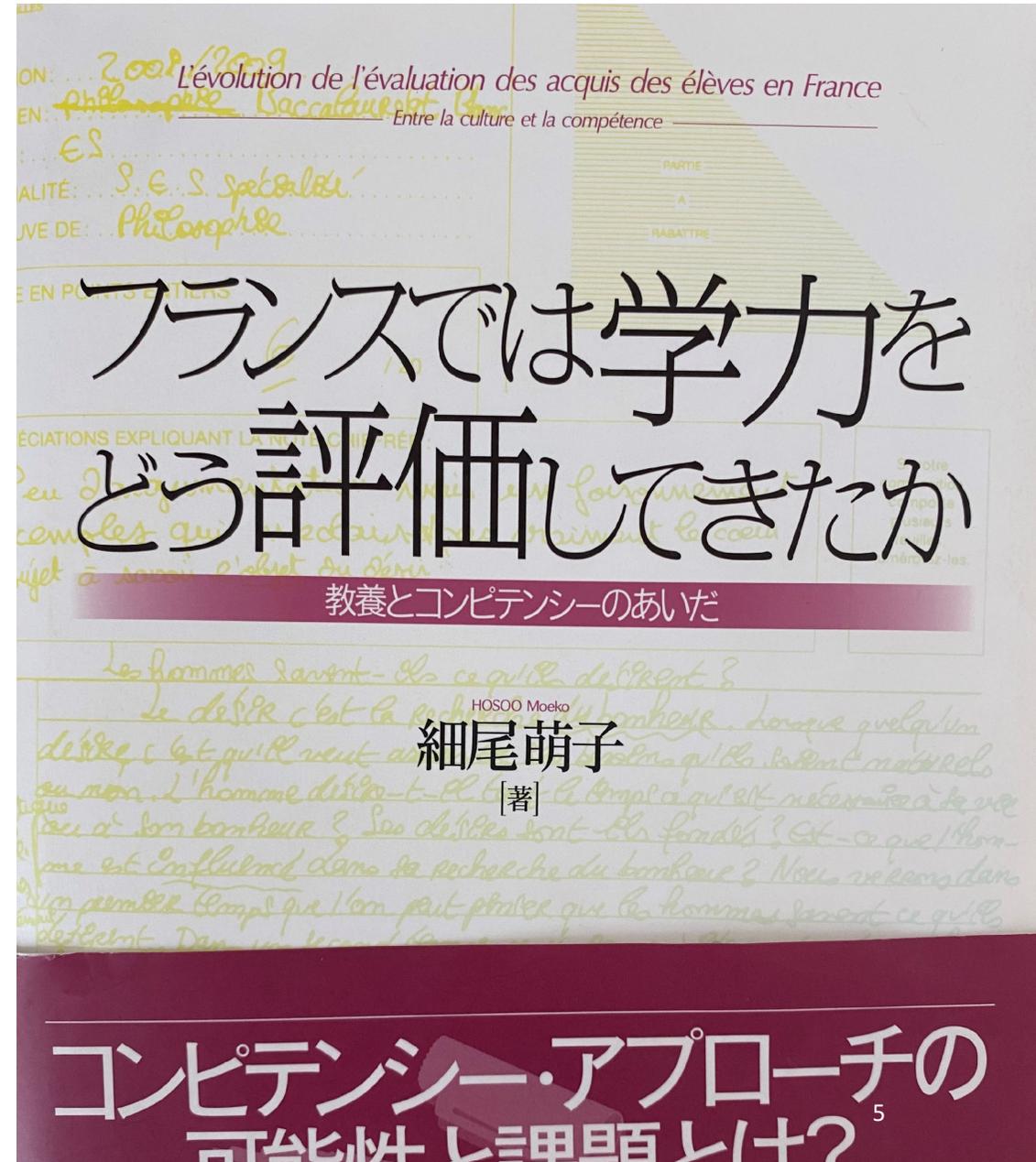
『フランスのバカロレアにみる
論述型大学入試に向けた思考
力・表現力の育成』（細尾萌
子・夏目達也・大場淳編著、ミ
ネルヴァ書房、2020年）

* 大学教育学会JACUEセレク
ション受賞（2021年3月27日）



○フランスのコンピテンシー・ベースの教育について

細尾萌子『フランスでは学力をどう評価してきたか—教養とコンピテンシーのあいだ—』（ミネルヴァ書房、2017年）



コンピテンシー・アプローチの
可能性と課題とは?⁵

それではご覧ください

受験勉強の先に大学・社会がつながる希望のある入試

○問題意識（高校生時代）

- ・なぜ大学入試のための「受験勉強」をしないといけないの？
- ・ふだんの勉強をがんばるだけではなぜだめなの？
- ・「受験勉強」って意味あるの？

○同志社高校：教科書をなぞるだけではない構造化された学び

- ・教科書を6頁しか使わなかった経済の先生。今も頭に残る「オポチュニティコスト」

- ・年号だけではなくて時代の特徴を全体的に捉える歴史の授業

⇔当時の大学入試（とくにセンター試験）では評価されない

→授業中に内職して受験勉強。教科書全頁丸覚え

○受験勉強の報われなさ

- ・大学のレポートや発表は、受験勉強で覚えた知識だけではできない（むしろ、ほとんど使えなかった）

社会で必要とされる力
大学で必要とされる力



つながりがわからない

入試で問われる力



勉強

意味あるの？ 徒労感

○日本の入試は妥当なのか？

- ・ 大学入試は高校で学ぶべきことを評価しているのか
- ・ バラバラの知識を問うだけではなくて、知識をつなげる力も問うべきなのは

⇒**妥当性**の問題：評価すべきことを評価しているか

○知識をつなげる力をなぜ入試で問えない？

・ **信頼性**（誰がいつ評価しても同じ結果になるか）を重視
公平性のために、100%の信頼性を求める文化。

・ 知識をつないで歴史の全体像を描けるかを問う試験では、信頼性は担保できない。評価のばらつきは必須。それは不公平！

→客観テスト（選択肢問題など）
細かな知識の習得度を問う試験

○細かな知識をたくさんもつ人材は社会に有益？

○信頼性の確保が至上命題、妥当性は二の次、その先にある人材観は三の次？

○それでいいのか、日本の入試？

○フランスの高校生は塾に行かない

- ・各大学の入試はない（志願者の振分はある）。
- ・高校終了時のバカロレア試験に合格すれば、基本的にどの大学にも入学できる。試験は論述中心。
- ・高校の授業をまじめに受けていれば合格できるので塾はない

・ふだんの勉強 = 受験勉強なら、日本よりも安心して勉強できるのでは？（妥当性の問題を解決？）

・論述試験で評価できるの？（信頼性は？）

・なんでこんな制度が成り立っているの？

⇒フランスのバカロレア試験への関心

○本書の三つの問い

- (1) 論述型大学入試はどうしたら実現するのか。
- (2) 論述型大学入試では、これからの社会の担い手に求める能力として、どのような思考力・表現力を問うべきなのか。
- (3) この思考力・表現力を、中学校・高校でいかに育成すべきか。

○本書の結論（13章）

（1）論述型大学入試はどうしたら実現するのか。

①作問・採点を行う高校教員の専門性への社会的信頼

- ・中等教員採用試験は論述中心
- ・高校教員は日々の実践でも論述の添削

②採点の観点・水準を調整するモデレーション

+ 「公平≠公正」観 *égalité ≠ équité*

採点のぶれはあって公平（取扱いの平等）でないが、専門家が指針に沿って採点してるから公正（階層等による不利がなく正当）

③バカロレア試験は資格試験で、点数が入学者選抜に使われることは基本的にないので、一点の違いにやきもきしない。

○本書の結論（13章）

（1）示唆

- ・ 論述試験の採点者（高校教員の位置づけ）、公平と公正の捉え方、高大接続の試験の性格は日仏で大きく違う
- ・ その議論抜きに単に論述試験だけ入試に導入しても無理

日本における公正

- 公平性と公正性が同義語としてよく用いられるように、公平であることが公正性の条件。とくに大学入試では、公平性確保が至上命題

(西郡大 (2009) 「大学入学者選抜における公平性・公正性の再考—受験当事者の心理的側面から」 『クオリティ・エデュケーション』 Vol.2, 119-136頁)

フランスにおける公正

- ・個人が享受する教育の機会を平等にするための政策や制度を打ち出すこと。

→恵まれない社会階層の人を重点的に支援：公平でないけど公正
(困難校への教員加配や恵まれない階層の生徒の優先入学枠)

Denis Meuret, l'entrée « égalité et équité des systèmes éducatifs », Agnès van Zanten(dir.), *Dictionnaire de l'éducation*, Puf, 2008, pp. 234-237.

○本書の結論

(2) 論述型大学入試では、これからの社会の担い手に求める能力として、どのような思考力・表現力を問うべきなのか。

バカロレア試験：

・資料を分析して問いや仮説を立てる力、資料からとりだした情報を比較・関連づけてまとめる力、それを既習の知識と結びつける力、それらを論理構成が一貫した文章で書く力が問われている。

←そのように考え、書き、話す「市民」を育成したいから

バカロレア試験問題の例

歴史・地理：月面着陸の写真とベトナム戦争反戦歌の歌詞という
「二つの資料を分析し、1960年代末にアメリカが世界規模の大国
になったことを示せ。この大国は、二つの資料ではどのように描か
れているか」

→導入（問題提起）・展開1（アメリカの強さ：軍事・経済のハー
ド・パワー）・展開2（強さ：科学技術のソフト・パワー）・展開
3（弱さ：カウンター・カルチャーなど異議）・結論

○フランスの受験勉強には希望がある？

社会で必要とされる力
大学で必要とされる力

試験みたいに論述・議論できる
大人が評価される



つながってる

バカロレア試験で問われる力



勉強

大変だけど意味を
感じやすい

○本書の結論
(2) 示唆

国レベル・各大学でこれからやるべきこと

①将来の日本社会では**どういう人が有能なのか**の議論

②①の**準備学力**として、大学新入生にどんな思考力・表現力を求めるべきか、の議論

③ある程度の信頼性を担保しつつ、②を測れる**試験方法の開発**

* 入試に論述を導入する方法論だけ考えてもだめでは

○本書の結論

(3) この思考力・表現力を、中学校・高校でいかに育成すべきか。

- ①大学入試で問われる力を、高校から中学校へ逆算して育む
 - ・バカロレア試験では教科ごとの論述の「型」。この型を分解することで、書くことの指導が小・中・高と段階的にできる
- ②中学校から高校へと積み上げた力を大学入試で評価
 - ・小→高とコンピテンシー・ベースの普及。コンピテンシーを評価する「複雑な課題」がバカロレア試験でも

* 日本でも①上からの道と②下からの道の両方を探究？

(参考) バカロレア試験問題の例

英語：（都市化の影響を懸念するエディとベック二人の対話文について）「エディは結局、ベックと話すことに決めた。マンハッタンの未来に関する彼らの会話文を書きなさい」

数学：すべての自然数 n について、なぜ $u_{n+1} = 0.75u_n + 3000$ になるかを説明せよ。

物理・化学：この加水分解で使われた酸の役割について仮説を立てよ。そして、この仮説を検証するための簡単な実験を提案せよ。